

街の歴史を紐解く、地域密着型企画展の第三弾！！
「くきのうみ ～近代産業の中心地 若松・八幡・戸畑～」
会期：2023年9月16日（土）～2023年12月28日（木）

ゼンリンミュージアム（福岡県北九州市、館長：佐藤渉）は、2023年9月16日（土）～12月28日（木）まで、街の歴史を紐解く地域密着型企画展の第三弾として、「くきのうみ ～近代産業の中心地 若松・八幡・戸畑～」を開催します。

■ 展示概要

「くきのうみ（洞海）」とは福岡県北九州市の北西部に位置する「どうかいわん洞海湾」を指す古い呼称です。明治維新によって近代国家へ成長した日本。その原動力となった重工業の発展に不可欠な石炭や鉄は、くきのうみを囲む若松・八幡・戸畑から全国各地へ運ばれました。また、3つの地域を起点に形成された北九州工業地帯は、近代産業をけん引する存在となりました。

本企画展では、近代産業の中心地として成長を遂げる要因となった「港」と「鉄」をテーマに、それぞれの都市の歴史を、35点の地図と資料から紐解きます。



■ 本企画展の見どころ

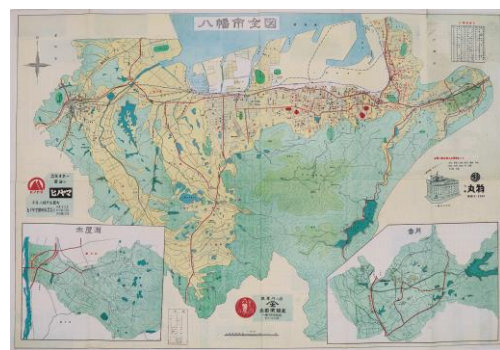
江戸時代まで、くきのうみ周辺地域は一地方の漁村や農村にすぎませんでした。明治時代になると、石炭輸送のための鉄道敷設や大型船舶受け入れのための港湾整備が進みます。こうした物流拠点への成長は、官営八幡製鉄所を呼び込むきっかけの一つとなり、急速な都市の発展へとつながります。本展示では、くきのうみ周辺地域が、漁村・農村から九州最大の都市へ成長する過程を各年代の地図や資料を通じてご覧いただけます。



▲「洞海湾沿岸都市新大地図」

萬年社 昭和5年(1930年)ゼンリンミュージアム所蔵

港湾整備と工場進出で発展を遂げたくきのうみ周辺地域を象徴する地図で、沿岸部から内陸へ市街地が広がっていく様子がわかります。



▲「八幡市全図」

善隣出版社 昭和30年(1955年)ゼンリンミュージアム所蔵

近代産業の中心地として鉄道・バス路線の整備が進んだ八幡市は、市域を拡大し福岡市に次ぐ県内第二の都市へと成長を遂げました。

■企画展のタイトルに込めた思い

「港」と「鉄」によって近代産業の中心地となった若松・八幡・戸畑。北九州工業地帯の起点として、そして都市としても飛躍的な成長を遂げた背景には洞海湾、すなわち「くきのうみ」の存在がありました。3都市の中央に位置する「くきのうみ」を各都市と近代産業の発展のシンボルと位置づけ、企画展のメインタイトルとしました。

■期間限定デザインのチケットホルダー

企画展の開催期間中、有料入館者全員に、期間限定デザインのチケットホルダーを配布します。
若松・八幡・戸畑の各都市と、その中央に横たわる「くきのうみ(洞海)」をデザインしています。



■地域密着型企画展とは

ゼンリンミュージアムでは、地図の新たな魅力に触れる機会を作ることを目的に、さまざまな企画展を開催しています。地域密着型企画展は、地図を通して街の歴史を紐解くことで、その街に興味・関心を持つきっかけづくりとなることを目指した企画展です。本企画展は、第一弾「地図に描かれたCocuraと北九州」(2021年1月～5月)、第二弾「福多か博愛の街 福岡・博多」(2022年9月～12月)に続く、第三弾となります。

■企画展開催概要

会期	2023年9月16日(土)～12月28日(木)
場所	ゼンリンミュージアム 多目的展示室

■学芸員による企画展ガイドツアー^(※)

日時	会期中の平日(休館日を除く)14:00～14:30
参加費	無料

※…ガイドツアーの事前予約は不要です。参加人数により、少人数のグループに分けて複数回実施します。

■「ゼンリンミュージアム」について (<https://www.zenrin.co.jp/museum/>)

開館時間	10:00～17:00(最終入館16:30)
休館日	月曜日(ただし祝日の場合は翌平日) ※この他、年末年始等、臨時に休館することがございます。
入館料	一般1,000円(800円) ※通常の入館料で企画展もご覧いただけます。 ※保護者同伴の小学生以下は無料です。 ※かつこ内は8名以上の団体および障がい者とその同伴の方1名の料金です。 団体料金は前日までに予約いただいた場合にのみ適用します。 ※入館料には、パンフレットおよびチケットホルダーの代金を含みます。